

『日本古代の国造と地域支配』 目次

序章 本書の視座と構成…………… 1

第一部 国造制の展開と諸氏族

第一章 人制研究の現状と課題…………… 15

——国造制・部民制の史的前提として——

はじめに…………… 15

一 人制研究の歩み…………… 16

二 人制研究の展望…………… 24

結 語…………… 30

第二章 境部氏と境界画定…………… 33

はじめに…………… 33

一 境部氏の成立時期…………… 34

二 境部氏の系譜と系統…………… 39

三 境部氏の職掌と分布…………… 46

(1) 境部の職掌 (2) 境部の分布

結語	57
(3) 境界画定作業の内容	
(4) 多氏系と阿倍氏系の境部氏	
第三章 凡直氏と国造制	69
―「凡直国造制」の再検討―	
はじめに	69
一 先行研究とその問題点	70
二 凡直氏の分布と改姓	76
三 国造の交替と凡直氏	82
四 凡直氏と凡人・凡人部	85
結語	90
第四章 武蔵国造の乱と横渟屯倉	101
はじめに	101
一 屯倉の所在地に関する先行研究	102
二 横渟屯倉と横見郡	108
三 横渟屯倉と交通	117
結語	124

第五章 武蔵国造と物部直氏

はじめに

一 入間郡の物部直氏

二 物部直氏と武蔵国造

三 武蔵国造の交替

四 武蔵国造の同祖系譜

結語

第六章 蘇我氏とヤマト王権

はじめに

一 蘇我氏の出自と台頭

二 崇峻暗殺と推古朝の蘇我氏

三 蘇我氏の衰退と乙巳の変

結語

..... 143

143

144

149

153

158

163

..... 177

177

177

181

184

187

第二部 『国造本紀』と系図史料

第一章 『国造本紀』 研究の現状と課題	193
はじめに	193
一 江戸時代の研究	194
二 幕末から戦前期の研究	199
三 戦後の研究	203
四 今後の展望	214
(1) 国造の配列	
(2) 『国造本紀』不記載の国造	
(3) 「臣連伴造国造百八十部并公民等本記」との関係	
結語	219
第二章 本居文庫所蔵『国造本紀之考』の研究	231
はじめに	231
一 『国造本紀之考』の概要と底本	231
二 『国造本紀之考』の校訂	233
三 『国造本紀之考』の考証①—国造の始祖と同祖関係—	235
四 『国造本紀之考』の考証②—国造の所在地と配列—	239
結語	244

【翻刻】『国造本紀之考』……………	251
第三章 『海部氏系図』の研究……………	259
はじめに……………	259
一 『海部氏系図』の概要……………	260
二 『海部氏系図』B・C部分の成立背景……………	264
三 『海部氏系図』A部分の成立背景……………	269
(1) 健振熊宿禰と和邇臣氏……………	
(2) 彦火明命と尾張連氏……………	
結語……………	284
【翻刻】『海部氏系図』……………	294
第四章 『日下部系図』の研究……………	297
はじめに……………	297
一 『統群書類従』所収の系図三本……………	298
二 『日下部系図』における古代部分の改変……………	302
結語……………	306

第五章 『日下部家譜大綱』の研究	311
はじめに	311
一 東大甲本の検討	313
二 東大乙本の検討	319
三 粟鹿本の検討	324
結語	329
第六章 古代の系図について	335
― 『海部氏系図』と『円珍俗姓系図』 ―	
はじめに	335
一 『海部氏系図』	336
二 『円珍俗姓系図』	339
結語	341
あとがき	345

初出一覽……………349

索引……………1

事項……………1  
人名・神名・氏族名……………6  
研究者名……………11

## 序章 本書の視座と構成

『日本古代の国造と地域支配』と題する本書は、筆者がこれまで発表した国造制に関する論考、および国造制を考える上での基礎史料を検討した論考を集めたものである。二部構成とし、第一部「国造制の展開と諸氏族」に計六編、第二部「『国造本紀』と系図史料」にも計六編の論考を所収した。初出時から論旨に大きな変更はないが、いずれも大幅な加筆・修正を行っている。以下、各章の論旨を整理し、本書の序章としたい。

### 第一部 国造制の展開と諸氏族

#### 第一章 人制研究の現状と課題 ―国造制・部民制の史的前提として―

稲荷山古墳出土鉄剣銘には「杖刀人」、江田船山古墳出土大刀銘には「典曹人」、『古事記』『日本書紀』には「海人」「湯人」などとあるように、古代の史料には「人」を語尾に付した集団名が散見することから、先行研究では五世紀代に人制なる制度が存在したと考えられてきた。それは、六世紀以降に展開した国造制や部民制の前史として位置づけられる。よって、国造制の成り立ちを論じる上で、人制の実態解明は避けて通ることのできない課題となる。

本章では、人制が中央に出仕するトモを編成した職務分掌の制度であり、五世紀代に実施され、のちに部民制の中に解消されていったことを確認した。そして、第一に大陸・半島の史料に見える「某人」との関係、第二に「某

人」と「某者」の差異、第三に「某人」から「某部」への移行、以上の三点が今後検討すべき課題であるとして、それぞれ現在の見通しを述べた。

特に第三点に関しては、「某人」は天皇と仕奉関係を結んだ特定個人に対して与えられる呼称であり、そうした複数の「某人」によって編成された集団がのちに「某部」と呼称されるようになったのであり、「某人等」「某人+人数」という表記はその移行段階を示すものであるとした。

## 第二章 境部氏と境界画定

国造制の成立を示す指標として、国造の任命に加えて、国造のクニ（管掌範囲）の境界が画定されることを重視する議論がある。クニの境界とは地図上に一線をもって画せるものではなく、交通路上の必要箇所に境界点を設定して区画するものであった。そうしたクニの境界画定に関わる職務は、蘇我臣氏と同族である境部臣氏とその配下に編成された境部が担当したと見られてきた。

本章では、境部とそれを統括した境部氏に改めて焦点を当て、蘇我臣氏が王権の中で台頭し、政治を主導するようになった六世紀後半に境部が設置されたこと、それを統括する伴造氏族として蘇我臣氏から境部臣氏（蘇我境部臣氏）が分出され、馬子の弟の摩理勢がその氏上に就任したこと、東日本を対象とした崇峻二年（五八九）の境界画定事業は蘇我臣氏が主導したものであり、この事業が境部を設置する直接的な契機になったことを明らかにした。また、境部氏には、蘇我氏系のほかに、多氏系・阿倍氏系・尾張氏系・東漢氏系があり、これらは蘇我氏と緊密な関係にあったことが要因となって境部の伴造氏族を分出したか、あるいは崇峻朝・天武朝の境界画定事業に従事した経歴があり、その際に配下の境部と職掌を通じた同祖系譜を形成したものと推定した。

さらに、「国境の標」を造立したことにより坂合部連の氏姓を賜ったとする伝承や、境部氏の中心となる系統が「境部」の表記を用いていること、境部に関係する地名がいずれも国造のクニや律令制下の国・郡などの境界付近に分布していることなどから、境部が境界画定を本来的な職掌としていた蓋然性は高いと判断し、その具体的な職掌は標の造立や、杖・冠・大甕・忌瓮の設置・埋納、さらに坂に坐す神に対する祭祀などであったと論じた。

### 第三章 凡直氏と国造制 — 「凡直国造制」の再検討 —

凡直という氏姓（ウジナ・カバネ）を名乗る氏族が、瀬戸内海沿岸に集中的に分布している。その中でも国造に任命されたものは、これまで「凡直国造」と呼称され、複数の小規模な国造を広範囲に統轄する存在であり、その設置により国造制の再編・強化を目的とする「凡直国造制」が施行されたと考えられてきた。しかし、研究の進展にともない、こうした理解には批判も出されている。

本章では、「凡直国造」および「凡直国造制」という概念の再検討を行い、凡直氏のうちで国造に任命されたと思われるのは、讃岐国と阿波国の凡直氏と、周防国の周防凡直氏に限られること、これらの国々では「国造のクニの名＋直」という型の氏姓を称する讃岐直氏・粟直氏・周防直氏が国造に任命されており、のちに凡直氏・粟凡直氏・周防凡直氏が国造を継承したことを指摘した。

次に、凡人とは五世紀段階に各地から中央へ出仕した人々が組織化され、特定の職掌を規定されず様々な任務に包括的に従事した集団であり、人制段階で組織化されていた凡人とその母集団が、部民制の導入にもなつて六世紀初頭以降に再編成あるいは名称変更されたのが凡人部であること、これら凡人・凡人部を地方伴造として各地で管掌したのが凡直氏であり、その一部が国造に任命されたものが「凡直国造」の実態であること、したがって国造

制の再編・強化を目的とする「凡直国造制」の施行は認められないことを述べた。

#### 第四章 武蔵国造の乱と横淳屯倉

『日本書紀』安閑元年（五三四）閏十二月是月条には、いわゆる武蔵国造の乱に関する記載がある。武蔵国造の職をめぐって笠原直使主と同族小杵が争ったが、朝廷の介入によって使主が武蔵国造に任命され、小杵は誅殺された。この時、使主は喜びのあまり黙していられず、横淳・橋花・多氷・倉櫛の四処の屯倉を献上したというものである。この争いは、国造制や屯倉制の成立を考える上で重要な論点となる。

本章では、特に横淳屯倉の所在地について、武蔵国の景観および河川交通・陸上交通の側面から考察した。まず、橋花屯倉は橋樹郡、倉櫛屯倉は久良郡、多氷屯倉は多磨郡にそれぞれ比定するのが妥当であるとした。それに対して横淳屯倉は、横見郡説・荏原郡説・多磨郡横野説などが出されていたが、複数の屯倉が置かれる場合、必ずしも集中して置かれるとは限らないことや、これまで多磨郡内の地名とされてきた「玉の横野」は和泉国の地名と考えられることなどから、荏原郡説・多磨郡横野説は首肯できないとした。

また、古代から「淳」と「沼」が通用されていたこと、横見地域（のちの横見郡に加えて、大里郡・足立郡・比企郡・入間郡の一部を含む）は洪水の常襲地帯であり、池沼が多く形成されていたこと、この地域には「横淳」に通じる「横沼」という地名が残ることなどから、横淳屯倉の「横淳」とは横見郡（横見地域）の景観に由来する地名であり、したがって横淳屯倉は横見郡に比定するのが妥当であるとした。

さらに、横淳屯倉が置かれた六世紀前半において、横見地域は旧入間川水系に属する多くの河川の合流地点であり、上流域と下流域をつなぐ物資輸送の経由地であり、なおかつ交通ルートが多摩方面（南武蔵）と埼玉方面（北

〔武蔵〕および上野方面への三方向に分岐する地点でもあることから、横渟屯倉とは河川交通と陸上交通を掌握するために設置された「交通・流通の拠点」であったと位置づけた。

## 第五章 武蔵国造と物部直氏

古代の武蔵国には、渡来系の人々が多く居住していたことが知られる。靈龜二年（七一六）には、甲斐・駿河・相模・上総・下総・常陸・下野の計七ヶ国に居住していた高句麗の遺民たちが集められ、武蔵国に高麗郡が設置された。その理由については、渡来系の人々を集住させて開拓を推進するためとする説や、渡来系の人々に対する優遇政策とする説、日本による「高句麗王権」の取り込みを象徴的に示す政治的意図があったとする説など、様々な見解が出されている。

本章では、武蔵国入間郡に本拠を構えた物部直氏（のち入間宿禰氏）の動向と、律令制以前に当該地域を管掌した武蔵国造の系譜に注目して、高麗郡設置の歴史的背景を考察した。そして、物部直氏は入間郡の郡領氏族であり、武蔵国造に任命されていた時期があったこと、六世紀前半には武蔵国造に笠原直氏（武蔵直氏）が任命されており、七世紀前半になって物部直氏へ交替したこと、武蔵国造は上総国（のちの安房国を含む）に所在した上海上国造・伊甚国造・菊麻国造・阿波国造、下総国の下海上国造、常陸国の新治国造と同祖系譜を形成しており、物部直氏はこうした同祖系譜にもとづくネットワークを活用して、高麗郡の設置に重要な役割を果たしたことなどを論じた。

## 第六章 蘇我氏とヤマト王権

かつて蘇我氏は大化改新で討たれた「逆臣」として理解されることが多かった。しかし、現在ではその実像が見

直され、古代国家の形成に大きく貢献した側面が再評価されている。本章では、蘇我氏本宗家（稲目―馬子―蝦夷―入鹿の直系四代）とヤマト王権との関わりを時系列に概観し、蘇我氏が国造制や屯倉制といった地方支配制度の導入に積極的を積極的に推進したことを指摘した。

## 第二部『国造本紀』と系図史料

### 第一章『国造本紀』研究の現状と課題

『先代旧事本紀』巻十「国造本紀」（以下、『国造本紀』）は、現在の国造制研究においては不可欠の史料とされている。『国造本紀』に関するこれまでの研究は、写本・書誌に関するものと、内容・史料性に関するものに大別できる。前者については、鎌田純一による先駆的研究を批判的に発展させる試みが続けられている。一方、後者については、『国造本紀』は『先代旧事本紀』が編纂された九世紀頃の段階ではじめて成立したのではなく、七世紀後半以前にさかのぼる内容を含むことが指摘されて以降、大きな進展は見られないのが現状である。

本章では、『国造本紀』の原資料に関する研究の歩みを江戸時代にまでさかのぼって整理し、『国造本紀』に所載された国造の配列の一部は、七世紀後半あるいは八世紀前半頃にまでさかのぼると見られること、火国造条の伝文にのみ見える大分国造は、七世紀後半に勢力が衰退したために、国造氏として「国造記」に登録されず、『国造本紀』にも立項されなかったという経緯が想定されること、さらに『国造本紀』が『日本書紀』推古二十八年（六二〇）是歳条に見える「臣連伴造国造百八十部并公民等本記」と関係する可能性は、依然として残されていることなどを論じた。

## 第二章 本居文庫所蔵『国造本紀之考』の研究

本居宣長は『古事記伝』の中で『国造本紀』には独自の内容が伝えられていると述べ、その史料性を高く評価した。ただし、宣長が『国造本紀』のいかなる点に関心を持っていたのかについては、これまで詳しく検討されることがなかった。

本章では、宣長が著した『国造本紀之考』という書物を取り上げた。宣長はこの書物の中で『国造本紀』から計三十七の国造を取り上げ、国造の始祖や国造間の同祖関係、国造の所在地や配列などの点について、諸史料と比較しながら考証を行っており、その内容は現在から見れば不十分な点もあるが、『国造本紀』の配列の問題を考える上で有益な指摘も含まれていることが確認された。また、研究史の中で『国造本紀之考』は等閑に付されてきたが、その内容は先行する『鼈頭旧事紀』を補い、後続する『国造本紀考』にも影響を与えていることから、『国造本紀之考』を『国造本紀』研究の先駆けとして位置づけた。

末尾に『国造本紀之考』の翻刻を付した。

## 第三章 『海部氏系図』の研究

丹後国の籠神社には、海部直氏の系譜を記す『籠名神社祝部氏係図』（以下、『海部氏系図』）が所蔵されている。この系図は料紙を縦方向に使い、人名の上に「兄」「弟」などの文字を付して系線で結ぶ豎系図の形式を留めており、『円珍俗姓系図』と並ぶ現存最古の系図とされる。その所伝によれば、海部直氏の始祖は彦火明命とされているが、尾張国の尾張連（宿禰）氏も同じく彦火明命を始祖としており、地理的に隔絶した二氏族の間に同祖系譜が形成されていることが確認できる。こうした関係の成り立ちを読み解くことは、古代における氏族のあり方や王権

との関わりを考える上で不可欠である。筆者はこれまで『海部氏系図』に関する複数の論考を発表してきたが、本章ではその成立過程を改めて簡潔に整理した。

まず、七世紀末から八世紀初めにかけて海部直氏の原系譜がまとめられ、八世紀中葉以降に海部直氏が本系帳を作成するようになる。九世紀後半まで歴代の人物が順次追加されていったとした。また、海部直氏は海上交通によつて、日本海沿岸地域に分布した和邇部と交流するようになり、七世紀中葉以前のある時期に健振熊宿禰を介して自氏の系譜を和邇臣氏へ結びつけたが、八世紀中葉以降に尾張連氏の系譜が彦火明命を頂点として整理・統合されると、海部直氏もその大規模な同祖関係の中に取り込まれ、その結果として系図に彦火明命が架上されるに至つたと推定した。

さらに、貞観年間（八五九～七七）に祝部氏人帳（祝部氏人本系帳）の毎年撰進が命じられたことを直接の契機として、貞観十三年（八七一）から元慶元年（八七七）の間に、本系帳に所載された人名を系線で結び、豎系図の形式を採用して改めて作成されたものが、現存する『海部氏系図』であることを論じた。

末尾に『海部氏系図』の翻刻を付した。

#### 第四章 『日下部系図』の研究

但馬国の日下部氏は、これまで律令制以前に但馬国造に任命された氏族、あるいは律令制下に国造氏に認定された氏族として取り上げられてきた。この氏族は、養父郡大領に任命された表米うわしねがはじめて日下部姓を賜わり、以降は養父・朝来両郡の郡司や国造兵衛を輩出したと伝えられるが、古代の関係史料が少なく、従来は『続群書類従』所収「日下部系図」（『日下部系図』『朝倉系図』『別本朝倉系図』で構成される）や、東京大学史料編纂所ほか所蔵『多

遅摩国造日下部宿禰家譜』(以下、『日下部家譜大綱』)など、後世に成立した系図がもっぱら利用されてきた。しかし、これらの系図に対する史料学的な検討は必ずしも十分に行われていなかった。しかも『統群書類従』所収「日下部系図」は日下部氏を孝徳天皇の後裔とするのに対し、『日下部家譜大綱』は開化天皇の後裔としており、このように内容を異にする二系統の系図が伝来した理由についても未詳であった。

本章では、『統群書類従』所収「日下部系図」を取り上げて、その成立事情と記載内容の特徴、および孝徳天皇後裔説が提唱された歴史的背景を考察した。そして、『統群書類従』所収の系図三本の中では、その原系図の記載内容を最も忠実に継承している『日下部系図』(もしくはその底本とされた『諸家系図纂』・『浅羽本系図』所収「日下部系図」)を利用するのが穏当であること、表米を日下部氏の始祖とする点、表米の子を都牟自・荒島の子とする点、荒島の子の中でも治長の系統が中世以降へ続いていったとする点、都牟自・荒島がそれぞれ養父郡・朝来郡の大領・少領に任命された年紀などは、後世の手が加えられた痕跡が確認されず、諸本の間でも大きな相違が生じていないことから、日下部氏の祖先伝承の中核をなす部分であり、原系図段階へさかのぼる可能性があることなどを指摘した。

## 第五章 『日下部家譜大綱』の研究

本章では、前章に続き『日下部家譜大綱』を取り上げ、諸本の成立事情と記載内容の特徴を考察し、系統関係の復元を行った。その結果、諸本のうちでは東京大学史料編纂所所蔵『多遅摩国造日下部宿禰家譜』が祖本としての位置を占めること、その内容は基本的に『日下部系図』を踏襲しているが、特に古代の部分には後世の考証にもとづく改変が加えられていることなどを確認した。また、古代における日下部氏の実態を考察する場合には、『日下

部系図』〔諸家系図纂〕・『浅羽本系図』所収「日下部系図」を重視し、必要に応じて『多遲摩国造日下部宿禰家譜』と比較・照合するのが適切な方法であることを論じた。

## 第六章 古代の系図について — 『海部氏系図』と『円珍俗姓系図』 —

古い段階の系譜は口承で伝えられており、のちにそれが文字化・文章化され、そこから豎系図や横系図の形態が生まれたと考えられている。そこで本章では、古代に成立した現存最古の豎系図である『海部氏系図』と『円珍俗姓系図』の内容を簡単に紹介した。ほかにも古い段階の文章系譜を含む稲荷山古墳出土鉄剣銘や、豎系図の形態を留める『粟鹿大神元記』などに加えて、古代に作成された系譜の内容を部分的に伝える系図は多く残されており、これらに関する情報を網羅的に集成することが喫緊の課題であるとした。

以上が、各章の要旨である。一書にまとめるに当たり、表現や体裁などは可能な限り統一したが、各章の意図するところによりそのままにした箇所もある。天皇号成立以前の君主号は「大王」とするのが正確であるが、読みやすさを考慮して「天皇」に統一した。読みがなや地名比定は、あくまでも便宜的なものである。古代の氏うぢとの混同を避けるため、研究者に対する敬称は原則として割愛した。ご容赦願いたい。

史料の引用は、以下のテキストを参考にした。以外の史料は、引用箇所に出典を適宜記載した。固有名詞など一部を除き、旧字や異体字は常用漢字に改めた。傍線は筆者が付した。

・『古事記』『日本書紀』『風土記』：『日本古典文学大系』、『日本古典文学全集』。

・『続日本紀』『万葉集』：『新日本古典文学大系』。

- ・『日本後紀』『延喜式』：『訳注日本史料』。
- ・『続日本後紀』『日本三代実録』『日本紀略』『類聚国史』『弘仁私記』『令義解』『類聚三代格』『類聚符宣抄』『公卿補任』：『新訂増補国史大系』。
- ・『律令』：『日本思想大系』。
- ・『新撰姓氏録』：佐伯有清『新撰姓氏録の研究』本文篇（吉川弘文館、一九六二年）、田中卓『田中卓著作集』九（国書刊行会、一九九六年）。
- ・『先代旧事本紀』（『天孫本紀』『天皇本紀』『神皇本紀』『国造本紀』）：鎌田純一『先代旧事本紀の研究』校本の部（吉川弘文館、一九六〇年）、鎌田純一校注『神道大系古典編8 先代旧事本紀』（神道大系編纂会、一九八〇年）、拙編「校訂国造本紀」（篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編『国造制の研究』八木書店、二〇一三年）。
- ・正倉院文書：『大日本古文書』。
- ・正倉院宝物銘文：松嶋順正編『正倉院宝物銘文集成』（吉川弘文館、一九七八年）。
- ・『古語拾遺』『高橋氏文』：沖森卓也・佐藤信・矢嶋泉編『古代氏文集』（山川出版社、二〇一二年）。
- ・『色葉字類抄』：前田育徳会尊経閣文庫編『尊経閣善本影印集成19 色葉字類抄2』（八木書店、二〇〇〇年）。
- ・『和名類聚抄』：池辺彌『和名類聚抄郡里駅名考証』（吉川弘文館、一九八一年）。

## 索引

## 事項

## 【あ】

- 我鹿屯倉 104, 124  
 赤淵神社 305  
 『赤淵大明神縁起』 305  
 飛鳥寺 181-183, 185, 186, 189  
 飛鳥宮跡 184  
 『朝倉家譜』 302, 303  
 『朝倉系図』 8, 298-302, 306-308, 311, 312  
 『朝倉始末記』 302, 304, 305, 309  
 『浅羽本系図』 9, 10, 300, 301, 307, 312, 330  
 『吾妻鏡』 115, 116  
 東の上遺跡 119-121  
 『海部氏系図』 7, 8, 10, 94, 259-265, 268, 269, 282-285, 287, 294, 335-338, 340, 341, 343  
 海部屯倉 103, 104  
 粟鹿神社 297, 301, 307, 312, 323-325, 328, 330  
 『粟鹿大神元記』 10, 94, 173, 242, 266, 288, 289, 322, 342

## 【い】

- 伊甚屯倉 103, 223  
 『和泉名所図会』 107, 132  
 出雲伊波比神社 147, 166  
 『出雲国造系図』 152, 267, 342

- 『出雲国風土記』 75  
 石上麿寺 181  
 乙巳の変 45, 61, 177, 184, 186, 187, 200, 202  
 稻荷山古墳出土鉄剣銘 1, 10, 15, 17, 154, 158, 342, 343,  
 入鹿屯倉 131  
 『色葉字類抄』 11, 111  
 磐井の乱 101, 102, 154, 213, 345, 346

## 【う】

- 牛鹿屯倉 104, 131

## 【え】

- 江田船山古墳出土大刀銘 1, 15, 17, 20  
 『延喜式』 11, 48, 64, 65, 72, 130, 224  
 『円珍俗姓系図』 7, 10, 73, 79, 169, 259, 267, 282, 335, 336, 339, 341, 344

## 【お】

- 生出塚窯跡群 162  
 大岡川 118, 346  
 大伯国造 233, 235, 236, 239, 251  
 凡直国造制 3, 4, 69, 70, 74, 82, 90, 92, 99, 100  
 大抜屯倉 104, 124  
 小壘田屯倉 124  
 『尾張国熱田太神宮縁起』 277  
 尾張国屯倉 44

【か】

- 春日部屯倉 104  
糟屋屯倉 102-104  
帷子川 118, 346  
葛城坐一言主神社 51  
肝等屯倉 104, 124  
『鎌倉遺文』 133-135  
鎌屯倉 103, 104, 224  
軽衛 47  
河辺屯倉 104, 130  
『寛永諸家系図伝』 309, 320, 332  
『元興寺伽藍縁起并流記資財帳』 179  
『勘注系図』 259

【き】

- 『紀伊国造系図』 72  
『紀伊国造次第』 72, 77, 169, 342  
旧入間川 4, 111, 117, 118, 124-126, 135, 137, 346

【く】

- 『公卿補任』 11, 39, 60  
『日下部家譜大綱』 9, 298, 307, 311, 312, 319, 329, 330, 342  
『日下部系図』 8-10, 173, 297-303, 305-308, 311-314, 317, 320, 324, 329, 330, 334  
百濟 18, 178-180, 183, 187, 258  
百濟大寺 185  
百濟大宮 185  
来目屯倉 50  
倉樸屯倉 4, 101, 103, 104, 109, 118, 123, 124, 153, 346  
桑原屯倉 104, 124

【こ】

- 恋ヶ窪遺跡 118, 120  
高句麗（高麗） 5, 20, 24-26, 48, 49, 143, 158, 162-165, 179, 183, 186  
『皇太神宮儀式帳』 263  
『鼈頭旧事紀』 7, 168, 170, 225, 233-235, 239-241, 243, 244, 247, 248  
『弘仁私記』 11, 267  
『国造記』 6, 161, 162, 195-208, 211, 212, 214, 216-219, 222, 245  
国造軍 71  
国造氏 6, 8, 161, 170, 197, 207, 210-212, 216-219, 224, 248, 249, 285, 318  
国造兵衛 8, 297, 311, 318, 330  
『国造本紀』 1, 6, 7, 11, 75, 76, 95, 112, 127, 152, 158, 160-162, 173, 191, 193-220, 222-226, 231, 235-249, 273-276, 280, 292, 316, 317, 330, 331, 333  
『国造本紀考』 7, 170, 199, 222, 240, 244, 248  
『国造本紀考説』 222  
『国造本紀攷註』 221  
『国造本紀之考』 7, 221, 231-233, 235, 239, 240, 242, 244, 251  
『古語拾遺』 11, 188, 195, 196, 205, 221, 236, 238  
『古事記』 1, 10, 15, 17, 28, 29, 35, 39, 42, 54-56, 60, 62-65, 67, 94, 95, 112, 151, 152, 154, 160, 171, 195, 203, 205, 210, 217, 221, 224, 225, 234-236, 243, 247, 248, 259, 269-273, 275, 276, 281, 288, 292, 293, 314, 316, 317, 330, 331, 335, 343  
『古事記伝』 7, 63, 194, 221, 231, 245  
『古史徴』 222

越部屯倉 104, 131  
 児島屯倉 103, 179, 228  
 高麗神社 165  
 籠神社 7, 259, 261-263, 266, 268, 293,  
 336, 337, 344

## 【さ】

埼玉古墳群 107, 121, 132, 154, 171

## 【し】

飾磨屯倉 104  
 洪川廃寺 181  
 杖刀人 1, 15, 17-20, 22, 25, 154, 158  
 『書紀集解』 60, 128, 129, 132  
 『諸家系図纂』 9, 10, 299-301, 307, 309,  
 312, 330  
 『上宮聖徳法王帝説』 179, 182  
 『聖徳太子伝私記』 168  
 『聖徳太子伝暦』 60, 149, 150, 168, 171  
 『続日本紀』 10, 36, 49, 61, 67, 72, 73,  
 78, 80-82, 84, 86, 91, 94, 96, 100, 112,  
 118, 123, 143, 144, 146, 150, 151, 156,  
 157, 159, 161, 165, 170, 172, 174, 175,  
 195, 197, 198, 201, 207, 209, 214, 215,  
 223, 226, 245, 249, 266, 285, 286,  
 289, 292, 293, 322  
 『続日本後紀』 11, 150, 151, 170, 209,  
 225, 226, 249, 261, 293  
 白猪屯倉 179, 228  
 新羅 18, 20, 24-26, 36-38, 48, 49, 87,  
 122, 148, 184, 187, 223, 238, 242, 257,  
 322  
 『新撰姓氏録』 11, 17, 35, 39, 40, 46, 47,  
 49, 51, 54, 55, 57, 62, 67, 96, 98, 146,  
 151, 152, 167-169, 199, 203, 236, 237,  
 251, 252, 255, 257, 268, 269, 275-277,  
 280-282, 286, 292, 333, 340

『新訂寛政重修諸家譜』 302, 309  
 『神皇本紀』 11, 112  
 『新版系図纂要』 302, 309  
 『新編武蔵風土記稿』 111, 121, 133  
 「臣連伴造国造百八十部并公民等本記」  
 6, 195-202, 204-206, 208, 218, 219,  
 245

## 【す】

『隋書倭国伝』 218, 219, 227

## 【せ】

『先代旧事本紀』 6, 11, 75, 152, 168, 170,  
 193-198, 201, 203-205, 210, 221, 231,  
 232, 246, 247, 273, 277, 278, 316  
 『先代旧事本紀析疑』 201, 222

## 【そ】

宗我坐宗我都比古神社 178  
 『続群書類従』 8, 9, 168, 291, 297, 298,  
 300, 301, 307, 311, 312

## 【た】

大化改新 5, 177, 186, 288  
 大國造制 71, 74, 217, 226  
 『大日本古文書』 11, 60, 66, 73, 94-98,  
 100, 165, 167, 173, 174, 227, 291-293  
 『大日本地名辞書』 109, 128, 129, 132,  
 175  
 『高橋氏文』 11, 127, 174, 203  
 橘樹官衙遺跡群 128, 137  
 橘花屯倉 4, 101-104, 118, 123, 124, 128,  
 129, 138, 153, 346  
 豎系図 7, 8, 10, 259, 265, 266, 268,  
 285, 336, 337, 339, 341-343  
 多摩川 106, 107, 118, 130, 138, 346  
 多氷屯倉 4, 101, 103, 104, 106, 109,

118, 121, 124, 125, 138, 153, 346

【ち】

『筑後国風土記』逸文 55

【つ】

海石榴市衢 47

鶴見川 118, 138, 346

【て】

丁未の乱 150, 180, 181, 183

天寿国繡帳銘 179, 342

典曹人 1, 15, 17-20, 22, 25

『天孫本紀』 11, 44, 63, 155, 195-197,  
201, 248, 278, 280, 282, 285, 286,  
292

『天皇本紀』 11, 95

【と】

東山道武蔵路 118, 120-123, 138

『藤氏家伝』 189

『止由気宮儀式帳』 263

【な】

『中臣氏系図』 265, 268

那津官家 44, 104, 179, 224

『寧楽遺文』 63, 72

【に】

西吉見条里遺跡 114, 119-121, 134, 139

『日本紀略』 11, 222, 223, 226

『日本後紀』 11, 73, 154, 165, 174, 175,  
267, 340

『日本書紀』 1, 4, 6, 10, 15, 17, 25-29, 31,  
34-38, 42-45, 47, 48, 50, 55, 56,  
60-65, 67, 82, 88, 89, 94, 95, 101-103,  
111, 112, 116, 122, 123, 125, 127-131,

134-136, 141, 147, 152, 153, 155, 156,  
168, 169, 171, 172, 174, 179, 181, 182,  
186, 188-190, 195, 200, 203-205, 210,  
216, 220, 223, 224, 226-228, 235-  
238, 246, 247, 249, 259, 266, 269,  
271-274, 276, 277, 281, 286, 288, 289,  
291, 293, 302, 303, 305, 306, 327, 346

『日本書紀通釈』 60, 128, 129, 132

『日本書紀通証』 128, 129, 132

『日本三代実録』 11, 63, 66, 72, 73, 84,  
95, 96, 188, 242, 261, 264, 291, 293,  
322, 337, 340

『日本地理志料』 128, 129

【は】

祝部氏人帳（祝部氏人本系帳） 8, 264,  
268, 283, 284

隼人 41, 42, 47, 48, 64, 223

『播磨国風土記』 28, 52, 54, 55, 131,  
326, 328, 333, 334

【ひ】

東金子窯跡群 117

氷上姉子神社 277

『肥前国風土記』 148, 156, 241

『常陸国風土記』 54, 55, 59, 67, 83, 126,  
237, 255

人制 1, 3, 15-25, 27, 30, 31, 87-91,  
98-100, 174

人姓 15-17, 23

【ふ】

府官制 18-20, 31

深草屯倉 122, 123

伏見稻荷大社 246

経湍屯倉 94, 104

『風土記』 10, 96, 166, 203, 224, 227,

236, 327, 328, 333  
 『豊後国風土記』 96

## 【へ】

『平安遺文』 65, 66, 72, 96, 97, 168, 340  
 『別本朝倉系図』 8, 298, 300-303,  
 305-308, 311

## 【ほ】

『法隆寺伽藍縁起并流記資財帳』 168,  
 169  
 『発心集』 113, 135  
 穂波屯倉 103, 104, 124, 224  
 本系帳 8, 264, 265, 267, 268, 282-285,  
 340, 341

## 【ま】

當勝神社 325  
 間敷屯倉 104, 130  
 松尾大社 232, 246  
 茨田堤 82, 83  
 『万葉集』 10, 51, 121, 129, 133, 140, 148

## 【み】

膳碕屯倉 104, 124  
 緑野屯倉 103, 122  
 南比企窯跡群 117  
 宮町遺跡（埼玉県坂戸市） 119, 138

## 【む】

武蔵国造の乱 4, 101, 124, 127, 346  
 武蔵国府跡 118  
 武蔵国分寺跡 118  
 『武蔵名勝図会』 104, 106, 107, 125, 131

## 【も】

物部天神社 147, 148, 166, 171

## 【や】

矢上川 118, 137, 138, 346  
 夜刀神 54, 55  
 山田遺跡（埼玉県坂戸市） 119  
 『大和志料』 65  
 『倭姫命世記』 263

## 【よ】

横淳屯倉 4, 5, 101, 102, 104, 106, 108,  
 109, 116-118, 124-127, 133, 346  
 横見神社 111-113, 133  
 依網屯倉 124

## 【り】

『令義解』 11, 264

## 【る】

『類聚国史』 11, 158  
 『類聚三代格』 11, 222, 264  
 『類聚符宣抄』 11, 292

## 【わ】

『和邇部氏系図』 270, 289, 293, 342  
 『和名類聚抄』 11, 65, 66, 99, 108, 112,  
 128, 130, 131, 138, 140, 141, 155, 156,  
 161, 169, 175, 209, 214, 215, 222, 224,  
 225, 239-244, 251-254, 257, 258, 291

## 人名・神名・氏族名

### 【あ】

明石国造 76, 83, 251  
 阿胡尼命 326-328  
 朝倉孝景 299, 303, 304, 321  
 朝倉義景 299, 300, 304, 305, 308, 321  
 葦分国造 76, 174  
 飛鳥部吉士氏 123, 124  
 阿知使主 42  
 阿倍臣氏（阿倍朝臣氏） 2, 37, 40-44,  
 46, 47, 49, 56-58, 62, 63, 154  
 海人 1, 15, 27, 28, 89, 270, 272, 277,  
 279, 280, 288, 291  
 海部直氏 7, 8, 89, 94, 259-263, 265,  
 268-270, 272, 274-280, 282-286,  
 288, 289, 292, 294, 295, 336-338, 343  
 海部直伍伯道 265, 266, 268, 288, 295,  
 337  
 海部直田雄 261, 262, 265, 268, 295,  
 336, 337  
 天津彦根命 211, 224, 236, 237, 244,  
 255, 256  
 天穗日命 146, 147, 151, 152, 159, 160,  
 166, 171, 211  
 天道根命 282  
 有馬皇子（有間皇子） 302, 303  
 粟直氏 3, 73, 80, 84, 85, 91  
 粟凡直 3, 72, 75, 80, 81, 85, 90, 91, 95  
 粟国造（阿波国造） 72-74, 76, 80, 84,  
 85, 233, 234, 237, 238, 257  
 安房国造（阿波国造） 5, 159-163, 214,  
 215, 233, 234, 241  
 安康天皇 29, 35, 60, 112, 172

### 【い】

廬原公氏 82, 96  
 廬原国造 76  
 伊弉国造 5, 76, 159-163, 214, 223, 241  
 伊豆国造 174  
 出雲臣氏 75, 145, 152, 171, 225  
 出雲国造 75, 151, 152, 267, 342  
 出雲宿禰氏 146  
 石上朝臣氏 146, 147  
 懿德天皇 50, 64  
 因支首氏 267, 282, 339-341, 344  
 稲葉国造 274, 275  
 茨城国造（茨木国造） 76, 83, 224, 236,  
 237, 255  
 入間宿禰氏 5, 144-147, 151, 152,  
 162-164  
 允恭天皇 27, 28, 40, 49, 60, 84  
 印波国造 76, 161, 214, 241

### 【う】

海上国造 174  
 厩戸王（厩戸皇子） 43, 88, 182-184  
 表米 9, 298, 302-307, 311, 314, 317-  
 319, 324, 326, 328, 330, 334

### 【え】

兄多毛比命 152, 159, 160, 211, 225  
 円珍 267, 282, 339-341

### 【お】

応神天皇（誉田天皇・品田天皇） 28,  
 29, 40, 52, 63, 112, 223, 257, 265, 270,

280, 281, 288, 292, 294, 326, 333, 337  
 近江臣氏 56, 57  
 淡海国造 273-275  
 大分国造 6, 217, 279  
 多臣氏 2, 40, 42, 56, 58, 135  
 大吉備津彦 54, 55  
 凡直氏 3, 4, 69-82, 84-86, 89-96,  
 98-100, 157  
 凡直千継 73, 78, 79, 86  
 凡直国造 3, 4, 69-71, 74-76, 78, 82, 86,  
 87, 90-93, 95, 96, 98-100  
 凡河内直氏 (凡川内直氏・凡川内連氏)  
 75, 76, 86, 91, 93, 98, 216, 249  
 凡河内国造 (凡川内国造) 209, 215,  
 216, 235, 236, 240, 255  
 凡人・凡人部 3, 72, 85-92, 95, 98  
 大伴直氏 151, 159, 160, 174, 306  
 大伴部直氏 150, 174  
 大彦命 (意富比埴) 39-41, 55, 57, 154,  
 171, 272, 314  
 大神朝臣氏 32, 94, 99, 100, 140, 144,  
 165, 167, 175, 189, 225, 249, 288, 332  
 大倭直氏 82, 153  
 大倭連氏 216, 249  
 小杵 4, 101, 107, 108, 125, 130, 153,  
 154, 172, 346  
 乎止与命 280, 281, 292  
 尾張国造 277, 280, 292, 293  
 尾張連氏 2, 7, 8, 41, 42, 44-46, 48, 56,  
 58, 62, 63, 178, 194, 199, 245, 260,  
 270, 276-284, 286, 287, 290-293, 338

## 【か】

開化天皇 9, 213, 224, 225, 273, 297,  
 311, 314, 316, 317, 319, 330, 331  
 甲斐国造 83, 97, 224, 225, 275, 293,  
 315

笠原直氏 4, 5, 101, 102, 121, 153, 154,  
 157, 158, 163, 171-174, 346  
 笠原直使主 4, 101, 107, 121, 130, 153,  
 154, 346  
 葛城直氏 82, 153  
 葛城臣氏 35, 43, 44  
 葛城国造 51, 76, 82, 153, 209, 215, 216,  
 240  
 上海上国造 5, 76, 158-163, 214, 241  
 上毛野君氏 101, 122, 153, 154  
 神祝命 (神魂命) 233, 235-237, 251,  
 257  
 神櫛皇子 73, 79

## 【き】

紀直氏 52, 77, 169, 241, 258, 282  
 紀伊国造 52, 76, 94, 104, 130, 169,  
 282, 290, 293  
 菊麻国造 5, 76, 159-163, 214, 241  
 吉備穴国造 76, 275, 276  
 吉備臣氏 156  
 吉備品治国造 76, 173, 275, 276  
 欽明天皇 28, 30, 37, 50, 61, 65, 112,  
 122, 129, 130, 172, 179-181, 185, 188,  
 189, 204, 205

## 【く】

日下部氏 8, 9, 297, 298, 300-303, 305-  
 307, 311-314, 316, 317, 320, 321, 324,  
 325, 329-332  
 日下部連氏 224, 314, 315

## 【け】

景行天皇 26, 95, 112, 129, 135, 156, 171,  
 174, 177, 255, 272-274, 281, 282, 303,  
 304, 306, 307, 312, 317, 333, 339-341

【こ】

- 皇極天皇 45, 122, 168, 172, 185, 186,  
188-190, 199, 200, 202  
孝元天皇 50, 62, 63, 65, 67, 94, 112,  
172, 177, 213, 281  
孝徳天皇 9, 185, 199, 200, 297-300,  
302-307, 309, 311, 312, 317, 319, 334

【さ】

- 坂合黒彦皇子 34, 35, 47, 60  
境部（坂合部） 2, 3, 33, 34, 38, 40, 46,  
47, 49, 53, 54, 56-58, 60, 61, 67, 68,  
181, 345, 347  
境部氏（坂合部氏） 2, 3, 33-41, 46-51,  
53, 54, 56-58, 61, 66, 67, 181, 184, 187,  
213, 286  
境部臣雄摩侶 36-39, 46, 48, 61  
境部臣摩理勢 2, 36-39, 46, 48, 53, 57,  
58, 61, 181, 184  
坂合部連贄宿禰 34-36, 38, 41, 47, 60  
相模国造（相武国造） 76, 83  
讃岐直氏 3, 78, 79, 84, 85, 91, 157  
讃岐国造 79, 84, 95, 157  
讃岐凡直氏（紗抜大押直氏） 73, 78-81,  
84, 85, 90, 91, 95  
沙本毘古王（狭穂彦） 225, 275, 276,  
314, 315

【し】

- 椎根津彦 82  
宍人臣氏 56, 57  
師長国造 76, 236, 252, 255  
科野国造（神野国造） 39, 225, 243,  
250  
下海上国造 5, 76, 159-163, 214, 241  
聖徳太子 149, 150, 182, 189, 204, 205,

227, 228

- 舒明天皇 37, 43, 60, 61, 149, 157, 168,  
184, 185, 303

【す】

- 推古天皇 6, 28, 29, 36-39, 43, 44, 61,  
88, 168, 179, 181-184, 186, 188, 189,  
195-201, 204, 205, 208, 218, 219, 227,  
228, 245  
須惠国造 76, 161, 162, 214, 234, 241  
周防直氏 3, 85, 91  
周防国造 76, 81, 85, 236, 255  
周防凡直氏 3, 72, 75, 81, 85, 90, 91  
素賀国造 76, 239, 240, 252  
崇峻天皇 2, 43, 45, 56-58, 169, 179,  
181-183, 189, 213, 346  
崇神天皇 27, 55, 94, 112, 255, 263, 272,  
281, 291, 331, 343

【そ】

- 蘇我臣氏 2, 5, 6, 16, 33, 36-39, 42-46,  
50, 57, 58, 61, 122, 177-186, 196, 199,  
200, 202, 205, 211, 213, 218  
蘇我臣稻目 6, 39, 42-44, 177-180, 182  
蘇我臣入鹿 6, 45, 122, 177, 185, 186  
蘇我臣馬子 2, 6, 36-38, 43, 45, 58, 177,  
178, 180-184, 196, 205  
蘇我臣蝦夷 6, 36, 37, 39, 43, 45, 177,  
178, 184-186, 199, 200

【た】

- 多珂国造 33, 126  
武内宿禰 57, 177, 269  
武国凝別皇子 282, 339-341  
武埴安彦（建波邇安王） 55, 255  
建比良烏命 151, 152, 160  
健振熊宿禰 8, 265, 269, 270, 272, 275,

276, 280, 283-285, 294, 337, 338  
 多遲麻君氏 173, 276  
 多遲摩国造（但遲麻国造・田遲摩国造）  
 76, 274, 275, 312, 313, 316, 317, 319,  
 330-332  
 丹波直氏 285  
 丹波国造 259, 278, 283, 285, 337

## 【ち】

近淡海国造 272, 273  
 近淡海之安国造 217, 273, 315  
 千葉国造 174, 217

## 【つ】

筑紫君氏 55, 104, 155  
 筑紫国造 28, 55, 101, 223, 345

## 【て】

天智天皇 46, 48, 49, 60, 61, 63, 149,  
 199, 266, 289, 302  
 天武天皇 2, 27, 29, 35, 36, 41, 46, 56,  
 58-61, 63, 64, 67, 95, 169, 206, 211,  
 212, 216, 218, 226, 227, 236, 241, 249,  
 266, 286, 289

## 【と】

豊忍別命（豊忍別乃君） 326-328, 330,  
 333

## 【な】

中臣烏賊津使主 26  
 中臣鎌足 185, 186  
 中大兄皇子 45, 185, 186, 190, 199, 200  
 長国造 74, 76  
 那須国造 76, 225, 243  
 難波吉士氏 123, 226

## 【に】

新治国造 5, 76, 159, 160, 162, 163  
 丹生祝氏 77  
 饒速日命（尊） 147, 194, 199, 213, 245,  
 286, 314

## 【ぬ】

額田国造 76, 83, 274, 275, 290  
 額田部臣氏 17

## 【は】

羽咋国造 76, 83  
 丈部直氏 83, 151, 157, 158, 174  
 播磨国造（針間国造） 76, 326-328  
 針間鴨国造 52, 53, 76  
 播磨佐伯直阿俄能胡 327, 328  
 伴造の国造 83

## 【ひ】

敏達天皇 49, 64, 79, 82, 85, 129, 174,  
 180, 184, 185  
 日子坐王（彦坐王） 272-274, 276,  
 314-317, 322, 331  
 彦国葺命（日子国夫玖命） 55, 270, 276  
 彦火明命 7, 8, 259, 261-263, 265, 269,  
 270, 276-278, 281-284, 286, 292-294,  
 336-338  
 火葦北国造 76, 174  
 火国造 6, 76, 83, 217

## 【ふ】

葛津立国造 225, 234, 241-244, 258  
 船穂足尼 274, 314, 316-319, 323, 326,  
 328, 330, 333

【ほ】

火闌降命 40-42, 62, 314  
穗積臣氏 (穗積朝臣氏) 36, 38, 48  
火照命 28, 41, 42, 62, 63

【ま】

馬來田国造 76, 161, 162, 214, 224, 236,  
237, 241, 252  
眉輪王 34, 35  
茨田連衫子 82, 83

【み】

三野前国造 76, 274, 275  
御村別君氏 267, 282, 339-341  
三輪君氏 122, 140, 144, 180, 181  
神部直氏 94, 173, 266, 267, 322, 332  
旻 185

【む】

武蔵直氏 (无邪志直氏) 5, 102, 154,  
157, 158, 163, 173, 174  
武蔵国造 (无邪志国造・胸刺国造) 4,  
5, 76, 83, 101, 102, 123, 124, 126-129,  
131, 132, 140, 143, 144, 149-154,  
157-160, 162-164, 166-168, 170-172,  
174, 175, 210-212, 225, 240, 346  
武蔵宿禰氏 83, 157, 158  
武蔵人強頸 82, 83  
武社国造 76, 161, 162, 214, 241, 275,  
276

【も】

物部直氏 5, 102, 143-153, 157, 158,  
162-164, 166, 171, 173, 174  
物部直広成 144-146, 151, 163, 166  
物部直 (連) 兄麻呂 149, 150, 157, 168,

169

物部連龜鹿火 (荒甲) 42, 44, 155  
物部連氏 43, 146, 147, 149-151, 155,  
157, 167-169, 171, 180, 181, 194, 197,  
199, 211, 213, 224, 240, 245, 248, 252,  
286  
物部連尾輿 180  
物部連守屋 43, 180  
物部 147, 148, 150, 155-157, 166, 168,  
169, 171, 240, 248, 252, 275, 320  
文武天皇 36, 196, 199, 267, 289

【や】

箭括氏麻多智 54, 55  
山背大兄王 37, 122, 184, 185  
山背国造 (山城国造・山代国造) 76,  
98, 209, 210, 215, 216, 220, 236, 240,  
255  
東漢氏 2, 42, 45-47, 49, 58, 63, 179,  
182  
大倭国造 28, 51, 76, 82, 153, 209, 215,  
216, 240

【ゆ】

雄略天皇 17, 19, 20, 25, 27-29, 34-36,  
47, 50, 51, 60, 89, 156, 172, 179, 263

【わ】

若建吉備津彦 (若健吉備津日子命) 54,  
55  
和邇臣氏 8, 269-276, 283, 284, 290,  
338  
和邇部 8, 270-272, 274, 275, 283, 284,  
290, 293, 338, 342

## 研究者名

## 【あ】

青木和夫 94, 95  
 浅野晴樹 136, 137  
 浅羽成儀 300  
 浅羽昌儀 300  
 浅見和彦 134  
 阿部武彦 96, 100, 203, 205, 224  
 甘粕健 107, 132  
 天野努 164  
 海部毅定 287, 288  
 新井喜久夫 63, 291, 292  
 新井孝重 165  
 荒井秀規 67, 98, 164, 166, 167

## 【い】

飯田季治 220  
 飯田武郷 60, 128  
 池上悟 134  
 池辺彌 11, 224  
 石田松藏 308, 309  
 石田善人 308  
 石村吉甫 261, 262, 286, 287, 343  
 石母田正 70, 71, 74, 75, 93, 190, 217,  
 226, 228  
 伊勢貞丈 220, 245  
 磯貝正義 228  
 市毛勲 167  
 伊藤潔 136  
 伊藤循 129, 137, 172  
 伊東玉美 134  
 伊藤常足 173  
 犬飼隆 277

井上薫 166  
 井上辰雄 64  
 井上尚明 140  
 井上光貞 59, 96, 141, 169  
 井上頼圀 220, 245  
 今井啓一 164, 167, 170, 174  
 岩城邦男 135  
 岩橋小弥太 228

## 【う】

上田正昭 227  
 植田孟縉 104, 131  
 上原真人 31, 189  
 植松考穆 228  
 上村昌男 138, 139  
 梅澤伊勢三 63

## 【え】

江口桂 139  
 榎英一 227, 228  
 遠藤慶太 228

## 【お】

近江昌司 164  
 大江篤 167  
 大川原竜一 11, 67, 68, 92, 229  
 太田善磨 227  
 太田亮 64, 66, 93, 170, 287, 293, 308,  
 342  
 大津透 31, 93, 99, 127, 164  
 大橋信弥 63, 289  
 大平聡 188  
 大町健 67

大山誠一 189  
大山為起 232, 246, 247  
大脇潔 189  
岡田莊司 167  
岡部譲 247  
沖森卓也 11  
尾崎知光 291  
小野里了一 70, 71, 74, 75, 93, 100, 169,  
170

【か】

角林文雄 228  
笠原吉広 166  
荷田春満 246  
加藤晃 93, 172  
加藤かな子 165  
加藤謙吉 35, 60-64, 67, 68, 140, 141,  
168, 174, 188, 189, 271, 281, 289, 290,  
292, 293, 308, 344  
加藤恭朗 137  
門脇禎二 64, 188  
金井塚良一 132, 133  
金久与市 287  
狩野久 93, 141, 189, 226  
鎌田純一 6, 11, 170, 193, 203-206, 209,  
211, 216, 219-224, 248  
鎌田元一 97, 99, 127  
亀井輝一郎 190  
賀茂真淵 196  
川尻秋生 189  
川田順造 343  
河村秀根 60, 128  
神崎勝 229

【き】

菊地照夫 68  
岸俊男 173, 290

北岡四良 246  
北康宏 100, 227  
北山茂夫 190  
木下良 138-140  
木村発 331  
木本雅康 139

【く】

熊谷公男 188, 289  
倉本一宏 61, 188-190  
栗田寛 41, 62, 64, 170, 199, 200, 222,  
240, 248  
紅林怜 308  
黒板勝美 220

【こ】

小池浩平 123, 140  
木暮仁一 140  
小島憲之 129, 136  
後藤四郎 264, 280, 288, 289, 292, 343  
後藤宏樹 137  
小林敏男 290  
是澤恭三 288, 325, 333  
近藤瓶城 220, 245

【さ】

佐伯有清 11, 41, 49, 62, 64, 89, 95, 98,  
100, 168, 173, 188, 220, 224, 248,  
249, 287, 289, 342, 344  
酒井清治 138, 139, 166, 167  
柴原永遠男 94  
坂楠和子 173  
坂詰秀一 138  
坂本和俊 175  
坂本太郎 60, 61, 93, 122, 136, 140, 172,  
175, 199, 202, 218, 221, 223, 227, 288,  
289, 343

鷺森浩幸 169, 308

桜井勉 308

佐々木一紀 228

佐々木虔一 68

佐々木秀子 287

笹山晴生 165

笹生衛 68

佐藤長門 188, 189

佐藤信 11

## 【し】

塩野博 139

重野安繹 313, 319, 333

重松明久 292

志田諄一 63, 188

篠川賢 11, 17, 18, 23, 31, 59, 68, 92, 95,  
96, 98, 100, 127, 141, 167, 170-173,  
175, 189, 193, 194, 197, 203, 210, 212,  
213, 216, 217, 219, 221, 222, 224, 225,  
229, 248, 290, 293, 308, 332, 347

清水久男 127, 132, 171

宿南保 308, 331, 332, 334

城倉正祥 127, 132, 171

新川登亀男 165, 228

## 【す】

末木健 97

鈴鹿千代乃 133

鈴木靖民 19, 31, 99, 106, 131, 136, 189

須田茂 140

須原祥二 93, 96, 166, 172

## 【せ】

関晃 23, 31, 63, 97

関和彦 106, 129, 131

関根淳 227, 228

瀬間正之 31, 99

## 【そ】

藺田香融 60

## 【た】

高嶋弘志 95, 203, 209, 215, 220, 224,  
226, 240, 248, 249, 289

高田大輔 175

高橋一夫 136, 137, 164

滝沢規朗 132

田口卯吉 220

多田義俊 220, 245

橘守部 194, 197, 198, 222

巽淳一郎 98

館野和己 127, 128, 141, 188

田名網宏 138, 227

田中卓 11, 166, 167, 169, 188, 287, 332,  
333, 342, 344

田中忠雄 334

田中巽 286

田中嗣人 227

田中久夫 167

田中広明 164

田中史生 20, 26, 31, 99

田中禎昭 128

棚橋利光 66

田辺勝哉 220, 245

谷川士清 128

## 【ち】

千葉真也 247

## 【つ】

塚口義信 189

津田左右吉 128, 220, 228

常田かおり 288, 289, 343

鶴岡静夫 170

## 【て】

寺崎保広 121, 139, 291  
 寺沢薫 65  
 寺西貞弘 94, 175

## 【と】

遠山美都男 228  
 富元久美子 164  
 虎尾俊哉 229

## 【な】

直木孝次郎 16-19, 29-31, 65, 87, 89,  
 98-100, 164, 227, 308  
 中大輔 140  
 中田興吉 99  
 中西正和 65  
 中林隆之 128, 129  
 中村生雄 167  
 中村修 99  
 中村倉司 137  
 中村友一 20, 21, 31, 99, 141, 343  
 長山泰孝 66

## 【に】

新野直吉 92, 174, 229  
 西田長男 228, 247, 291  
 仁藤敦史 93, 100, 128, 168, 169, 188

## 【ね】

根本靖 138, 140

## 【は】

長谷川厚 137  
 長谷部将司 228  
 服部良男 291  
 林田喜一 313

林田永助 319-321, 323, 325, 328-330,  
 332-334

林屋辰三郎 227

速水侑 189

羽床正明 167

原京子 139

原島礼二 128, 132-134, 140, 164, 166,  
 168, 171, 172

伴信友 221

## 【ひ】

菱田哲郎 23, 31

菱沼勇 166, 171

日野昭 63, 64, 188

平石充 22-24, 31, 99

平泉洸 228

平川南 167

平田篤胤 194, 196, 198, 200, 222

平林章仁 59-61, 64, 141, 188, 189, 225

平野邦雄 99, 127

## 【ふ】

深澤靖幸 131

福島正義 135, 139

古江亮仁 104, 130

## 【ほ】

堀川徹 26, 31, 59, 92, 128, 129

本位田菊士 64, 67

本郷真紹 189

## 【ま】

前田晴人 64, 67, 141, 225

前之園亮一 30, 64, 174

前野包広 222

益田勝実 167

松岡玄達 247

松木俊暁 96, 166  
 松倉文比古 292  
 松嶋順正 11  
 松原典明 138  
 松原弘宣 70, 71, 74-76, 93, 95  
 松原信之 309  
 松前健 291  
 松本弘毅 193, 221, 246  
 間宮士信 134  
 黛弘道 39, 61, 64, 174, 188, 228, 331  
 丸山可澄 299

## 【み】

三浦圭一 140  
 御巫清直 199, 201, 222  
 水谷千秋 189  
 溝口駒造 220  
 溝口睦子 175, 225, 287, 332, 342  
 溝口優樹 22, 23, 31  
 三橋健 286, 287, 343  
 湊敏郎 30  
 宮瀧交二 136, 137, 164

## 【む】

村尾次郎 228  
 村岡良弼 128  
 村田文夫 131, 138  
 村田正志 262, 286-288, 295, 343  
 村松喜許 249

## 【も】

本居宣長 7, 63, 194, 196, 198, 221, 231, 232, 244  
 森公章 65, 93, 127, 164, 175, 189  
 森浩一 292  
 森田悌 140, 165-168, 170, 171

## 【や】

八木充 69, 93-96, 229  
 矢嶋泉 11  
 藪田嘉一郎 228  
 山尾幸久 93, 226, 228  
 山崎闇斎 246, 247  
 山崎武 175  
 山近久美子 67  
 山中一郎 141  
 山中敏史 167

## 【ゆ】

弓明義 139

## 【よ】

横田健一 221, 248  
 吉川真司 228  
 吉川敏子 344  
 吉井巖 63, 286, 291  
 義江明子 263, 282, 288, 290, 293, 342, 344  
 吉田晶 70, 71, 75, 76, 82, 85, 93, 167, 175, 193, 203, 205-209, 217-219, 221, 224, 248  
 吉田東伍 128, 175  
 吉村武彦 18-20, 23-26, 31, 67, 98, 99, 129, 188, 189  
 米田雄介 175, 203, 207, 208, 217, 224, 229

## 【わ】

若狭徹 140  
 若松良一 132, 134  
 和島誠一 132  
 和田明美 277  
 和田萃 60, 227, 271, 290, 291  
 和田英松 175, 199, 201, 202, 205-207, 222  
 渡辺貞幸 132  
 度会延佳 170, 233, 247

